

インターバンクの声（2015年4月9日）

昨日、2日間にわたって開催された日銀金融政策決定会合で追加金融緩和の決定があるとの予想はごく僅かだったはずだが、政策の据え置き発表を受けての円買いが思った以上に進んだ。その後は、黒田日銀総裁の会見の前後に、119円台後半を小幅上下する展開となり、日本時間の未明（9日）の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨の発表や米企業決算の発表を睨む展開。その注目の3月のFOMC議事要旨は、年内の利上げの可能性が残っていることが示され、ドルが日銀会合の決定発表前の120円台前半に戻される結果となり、日米金融当局の政策を巡る材料がドルの上下動をそれぞれ打ち消しあった。3月のFOMC議事要旨については、多分この後、4月29日のFOMCまで何度も年内の利上げの可能性を巡る材料にされると思われるが、やはり一番議論が割れる元になりそうなのが、3月のFOMCが今月3日の雇用統計発表前に開催された会合だったことだろう。数人の委員会メンバーが6月の利上げが正当化されると見ていたようだが、雇用統計の結果や4月中のその他の経済指標の結果を見て、29日のFOMCでどのような対応を示すのかが興味深い。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。